

普及活動情勢報告（令和5年1月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

電照の活用で冬場の収量アップを狙え！ ～ニラ農家の巡回～



電照の活用について説明する
普及指導員（左側）

12月16日、電照を使用しているニラ農家4戸を対象に、年末年始の高単価時期の収量増を目指して、電照の使用時間や栽培管理についてJA土佐くろしお営農指導員とともに巡回、指導しました。

巡回した農家は、11月中下旬以降に電照の使用を開始し、夜間の暗期中断を2時間半程度行っており、適正な電照の活用ができていました。農家からは「冬場はニラの伸びが悪いので、電照による生育促進効果を実感している」との声がありました。

電照は、終了時期を誤ると株の倒伏や抽台の発生などのリスクがあるため、労働力を考慮した適正な電照の活用について、今後も啓発を続けていきます。

栽培技術向上へ役員同士で相互研鑽 ～JA 土佐くろしおキュウリ部会が視察研修～



熱心に研修する参加者ら

12月16日、JA土佐くろしおキュウリ部会役員3人が農業担い手育成センターで視察調査を行いました。

実証ハウスで、県内産地の主要品種や常温煙霧機の実証等について説明を受けた後、質疑応答や情報交換を行いました。

当課は、産地の現状を踏まえた助言を行うなど、理解を深めてもらうためのサポートをしました。

参加者から、「品種特性がよくわかり、管理の参考にしたい」「省力化が期待できる常温煙霧法に興味があった」と多くの感想が聞かれ、有意義な研修となりました。

今後も、JA土佐くろしおと連携して部会活動の支援を行い、栽培技術のレベルアップに取り組んでいきます。

津野町農業委員等との連携を深めるために ～津野町農業委員会との意見交換会～



意見交換する参加者ら

12月21日、当課の呼びかけにより、津野町役場本庁舎で、津野町農業委員会、津野町、当課の職員ら23人が出席して、地域計画をテーマに意見交換会を開催しました。

当課からは、地域計画の取組について説明しました。

農業委員からは「農家だけでなく住民自体が減った集落も多い」「人も少なく農地は保全管理で精一杯な所もある」といった現場の実態を踏まえた意見等がありました。

今後は、農業委員会等との連携を深め、地域計画に係る目標地図等の作成などを支援していきます。

アシストスーツ等を体験！ ～スマート農業技術研修会を開催～



アシストスーツを試着する参加者ら

12月22日、当課はスマート農業を推進するために須崎総合庁舎で研修会を開催し、集落営農組織構成員、露地野菜や水稻等の生産者、関係機関職員等21人が参加しました。

当課などから、国や県のスマート農業の推進状況や施策、全国の取組事例を説明後、アシストスーツの試着等を行いました。

多くの参加者が試着し、「自分たちの地域で出前研修会を行って欲しい」「今後も、機器に触れられる研修を開催して欲しい」などの要望がありました。

当課は、今後もスマート農業の推進に向けて、アシストスーツの貸出し等を続けていきます。

令和4年の甘とう栽培を振り返ろう ～津野山土佐甘とう部会反省会～



資料を説明する普及指導員

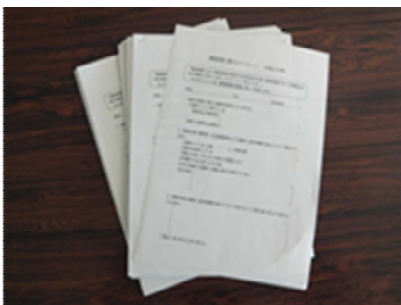
12月26日、JA津野山営農経済センターで、土佐甘とう部会が反省会を開催し、12人が参加しました。

JAから今年度の出荷状況や、来年度の取組を説明した後、当課から、今年度の栽培をふり返り、収量と茎周の関係や、尻腐れ果の発生抑制に向けて取り組んだ台木の実証試験結果について報告しました。

参加者からは「来年は整枝の時期や方法をもう少し考えてみたい」「新たな台木を試験してみたい」といった声がありました。

当課は、今後も尻腐れ果対策や整枝管理について、実証試験や巡回指導を行っていきます。

農福連携を進めるために ～農福連携に関するアンケートを実施～



農福連携に関するアンケートの回答

11月から12月にかけて、当課は関係機関と連携して、障害者等の雇用、体験受入についてのアンケートを実施し、JA土佐くろしおの5園芸部会員延べ78人、JA高知県津野山営農経済センターの5園芸部会員延べ37人から回答を得ました。

障害者等の雇用については、「すでに雇用している」あるいは、「今後体験だけなら受入可能」である生産者などが20人程いること、作業ができなかった場合の対応などに疑問や不安を感じていることなどが分かりました。

今後は、関心のある生産者を対象に、障害者等の雇用・体験受入についての勉強会を開催して、農福連携を推進していきます。

ミョウガ栽培での天敵有効活用を目指して ～ミョウガ IPM 防除効果の検証～



ミョウガ IPM マニュアル

12月から1月にかけて、当課は、ミョウガ栽培で利用が進んでいる天敵昆虫の防除効果を高めるため、IPMマニュアルの改訂と実証ほの設置を行いました。

今園芸年度の実証ほは、ハダニへのチリカブリダニの定期放飼と防虫ネットの併用活用について、3戸の農家に設置しました。

今後、環境データを利用した天敵昆虫の定着状況を確認しながら、防除効果について関連企業と連携を図りながら検証していきます。

また、IPMマニュアルの普及を図ります。

次作に向けた改善策を検討しよう ～津野山ミョウガ部会個別面談～



次作に向けた改善策の検討

令和5年1月6日・10日・12日・19日、JA高知県津野山営農経済センターで、津野山ミョウガ部会員17人全員の個別面談を、当課とJA職員とで実施しました。

当課からは、前作の生育調査結果や環境測定データなどを説明し、JAからは出荷実績を提示しました。部会員から前年に設定した目標収量と計画の達成状況を聞き取りながら、次作の目標収量の設定への助言とその達成に向けた改善策の提案を行い、部会員ごとに次作の目標収量と計画を立てることができました。

当課は、今後も全部会員の目標収量達成に向けて、指導していきます。